

刑事部

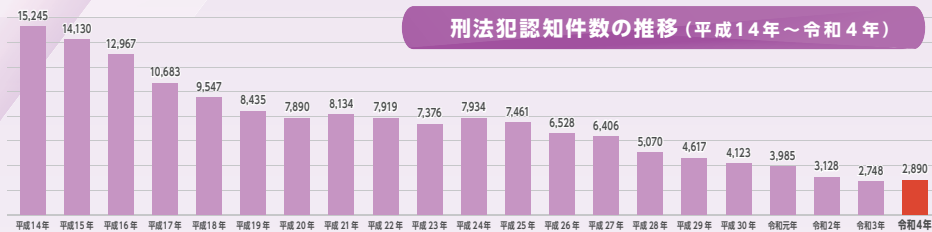
安全・安心なやまなしをめざして

令和4年の刑法犯認知件数は2,890件と、戦後最多を記録した平成14年の5分の1以下に減少していますが、令和3年と比較するとやや増加しました。

この増加の要因としては、車上ねらい、自動販売機ねらい、自転車盗などの屋外窃盗が増加したことが挙げられます。

県警察では、犯罪抑止総合対策及び各種捜査活動を強力に推進しており、これにより犯罪情勢には改善傾向が見られますが、電話詐欺や県内特有の果実窃盗など、県民が不安を感じる身近な犯罪が発生しているため、体感治安の向上には至っていません。

今後も、県民生活を脅かす犯罪の徹底検挙に努めるとともに、犯罪組織の徹底した解明・壊滅に向けた取組を推進していきます。



組織犯罪対策

「組織犯罪」というと、暴力団のことが思い浮かぶかもしれませんが、実際には外国人マフィア、半グレ集団、暴走族、窃盗団、特殊詐欺グループなど多種多様な組織によって、粗暴犯以外にも、薬物犯罪、詐欺などの知能犯や経済犯罪といった様々な事件が引き起こされています。

近年、これら犯罪組織の資金獲得活動は、時代の変化に対応して取締りや法規制の緩やかな分野へ広がるなど、悪質・巧妙・多様化していることから、組織犯罪捜査はますます複雑・困難となっています。

県警察では、犯罪組織の弱体化・壊滅を図るため、総力を挙げて、首魁等組織の中核を担う幹部の検挙、構成員の反復継続検挙により、社会生活からの長期隔離を図るなど、人的基盤弱体化のための取締りを推進するとともに、薬物事犯の検挙や犯罪収益の没収・追徴により資金源根絶を図り、さらに違法な力の象徴である銃器の取締りを徹底しています。

また、取締りとともに、県民、県、市町村、事業者、(公財)山梨県暴力団追放運動推進センター、県弁護士会等の関係機関・団体と協力し、総合的な暴力団排除活動に取り組むほか、犯罪組織が悪用する制度について情報共有を図ることなどにより、社会を挙げた組織犯罪対策の推進に努めています。



上野原市大野地内における
移住夫婦による大麻所持・大麻栽培事件押収品

暴力団の行為は、犯罪として処罰されるものだけでなく、暴力団対策法等によって規制することができる場合があります。

悩まず、どんな小さなことでも最寄りの警察署、交番、駐在所まで相談してください。

事件解決のための鑑識活動

犯罪現場は「証拠の宝庫」であり、犯人検挙・事件解決の手がかりとなる資料が残されています。

警察では、綿密な現場鑑識活動によって指紋や足跡等の資料を採取し、犯人検挙・事件解決のための重要な証拠として活用しています。

また、鋭敏な嗅覚を有する警察犬は、逃走した犯人の追及、遺留品の検索、行方不明者の捜索等で活躍しています。



現場鑑識活動



犯人の追及

科学捜査研究所

犯罪現場から採取した様々な鑑定資料は、科学捜査研究所で鑑定し、犯人検挙、事件解決の重要な証拠になります。科学捜査研究所では、法医、化学、機械、電気、心理学等の専門知識や分析技術を有する職員が、DNA型鑑定、薬物・毒物の分析、火災や交通事故の原因究明、筆跡鑑定、ポリグラフ検査、犯罪者プロファイリング等の科学捜査を担当しています。



DNA型鑑定



新型コロナウイルス血液薬毒物鑑定